

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100159		
法人名	社会福祉法人恵康会		
事業所名	グループホームひかりの丘		
所在地	福岡県北九州市門司区上藤松3丁目2-1 (電話) 093-382-3111		
自己評価作成日	平成 29 年 6 月 30 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームひかりの丘では、1日でも長くご自分の口から美味しく食事が召し上がれるようご家族、職員と話し合いながら取り組んでいます。口腔ケアについては、毎食後ご利用者に合った歯ブラシ等を使用し清潔保持に努めています。口腔ケアが難しいご利用者には、歯科衛生士により隔々までケアが行われています。歯や義歯、その他口腔内に異変がみられた時は、歯科医でもある理事長がすぐに対応して下さる環境にあります。また、心肺機能向上のため吹き矢大会の開催や口の周りの筋肉や嚥下機能を少しでも維持できるように食事前に口腔体操を取り入れています。食事に関しては、普段の会話より召し上がりたい物を伺い食事作りや外食に出掛けています。ご利用者に応じて食事の形態もその都度検討しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 7 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

立地は見晴らしのよい高台にあり、街並みがきれいに見える。建物は4階にあるが、広いベランダには畑を作っており、緑も多く心地よい住環境になっている。
理事長が歯科医でもあり、ご自身の口から食事をとってもらえるように努めていて、毎食後の口腔ケアにも力を入れている。
歯科衛生士による協力もできており、また、月2日歯科医による口腔ケア講習を実施し、職員も口腔ケアの技術向上に努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口に法人理念、ユニット入口にグループホームの理念を掲示している。朝礼時に法人理念、運営方針を唱和し職員が共有しながら日々の業務にあたっている。法人理念の研修も行っている。	法人理念とグループホームの理念があり、共に掲示し、朝礼時に唱和し職員との意識共有に努めている。また、日々の業務の中で理念を基にした、気づきや実践ができるように、お互いが声掛けや指導にあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1ヶ月に2回、体操のボランティアに来ていただいている。また、地域の方に施設行事の夏祭りや餅つきに参加していただき交流を図っている。	自治会に加入しており、グループホームの内容が掲載された法人広報誌を3か月に一度、地域で回覧してもらっている。地域の行事「藤松フェスタ」に利用者と一緒に参加したり、グループホームの祭りに地域の方々を招待し、交流を図っている。また、地域のボランティアさんが、工作作りをしてくれたり、折り紙教室を開いてくれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に認知症であることを説明しわかりやすく指導していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、併設する特別養護老人ホームと一緒にいる。活動内容やヒヤリハットの報告を行い、意見を伺っている。	2か月に一度開催している。地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者が参加しており、グループホームで行った活動やヒヤリハットを報告している。ご家族より外出や食事について出た要望を、外出レクや食事レクに取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、空室情報報告書の提出を行っている。疑問に思うことやわからないことは、すぐに相談するようにしている。	地域包括支援センターには運営推進会議に参加してもらい、連携できるようにしている。分からないことや困ったことがあれば、すぐに区の介護保険課に相談し、アドバイスを受け、協力体制がとれるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームが4階にあるため、転落防止のため窓に鍵はかけている。また、離脱防止のためエレベータに操作が必要となっている。その他、玄関や居室の鍵は施錠していない。	玄関に施錠はされておらず、エレベータは操作が必要なため職員と利用者が一緒に降りて移動できるようにしている。外部の身体拘束防止の研修に参加し、ミーティング時に内部研修をして、職員皆で共有できるようにしている。言葉での拘束にも注意しており、管理者が職員個別に指導しており、身体拘束防止に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施を行っている。ご利用者に対し不適切な態度や発言が見られた時は、その都度職員間で注意し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を感じた時は窓口に相談し、ご家族に判断を委ねている。財産関係の内容が多く、ご家族自身で対応している。	法人全体で研修を行っている。また、月に2回ミーティングを行い、職員全員が参加し、話し合い、共有できるようにしている。家族には利用開始時や必要時に説明し、判断に困らないようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り説明を行っている。不明な点は、その都度対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通じてご家族の意見や要望を反映させている。ご利用者にとって暮らしやすい環境作りを心掛けている。	自分で意見や要望を伝えられない利用者に対して、どう思われているのか、職員が気持ちを吸い上げられるように気をつけている。利用者がテレビを見ている時、ここに行きたい、これが食べたいという発言を聞き逃さず、レクで似たような所へ行っている。家族会のみでなく、日頃の面会時にも家族の意見を聞くようにし、面会に来ない家族に対しては面会を促し、話をするようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回 理事長、施設長、事務長、看護師、各事業所のユニットリーダーが参加する運営会議を開催している。また、ユニットミーティングに全員参加できるように月2回行っている。	月一回のミーティングを2回に分け、各回の参加人数を減らしたことにより、職員からの意見が出やすくなった。職員同士もコミュニケーションがとれており、お互いの声を拾いながら活かしている。また、管理者は発言しやすい雰囲気を作っており、職員からの意見もよく取り上げることができている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行いやりがい等を尋ねている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の意向や体力面を考慮し勤務体制を整えている。 職員間で協力し合い有給休暇を取りやすくしている。	採用選考で性別や年齢を対象にしておらず、60歳後半の方も正社員として活躍している。本人の意向や、人間関係を考慮して働きやすい職場環境づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行い1人ひとりの人権に対する意識を高めている。	外部研修に参加した職員が、内部研修としてミーティングで伝え、職員全員が共有できるようにしている。また、管理者は個別的にも教育して、意識を高めるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修はなるべく多くの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。施設外研修は、多くの職員が受講できるようにしていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高福協主催の地域密着サービス部会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴し他者とも打ち解けるよう様子を伺いながら輪の中に入らせていただいている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を十分に聴き、いつでも相談に応じることができるようになっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、職員と検討し必要に応じ主治医にも相談し対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶ事もあり、お互いが思いを尊重しながら穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出や外食は自由に行っている。 ご利用者が寂しい思いをしている時、無理のない範囲で面会を依頼することもある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の意見を聴き外出レクを企画している。 また、友人等が面会に来られ関係性が継続できるよう支援している。	外出レクの時に、もともと住んでいた所の近くに行ったり、家族同士の方が近所だったりし、輪が広がったりしている。 近所の方が月2回体操ボランティアに来てくれて、その時は利用者もいつもより積極的に体を動かしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間で気の合う同士、席の位置と一緒に過ごす時間を考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応したい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者一人ひとりの思いや希望を聞き行動を観察したりご家族にも話を聞き本人の希望に沿えるよう努めている。	利用当初から本人を気遣う気持ちと共に、不足のある情報は、家族から聞き取っている。希望や意向については、担当者会議で話し合いが行われ、介護計画や個別援助計画に反映されている。又、利用者の言葉や表情から本人の気持ちを汲み取り、気持ちの安定が図れるように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや入居後もご利用者、ご家族に生活歴や趣味等、話を聴くように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自分らしく過ごせるようアセスメントなどを通じて身体機能、精神状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、ユニットミーティングを行い様々な意見を聴きケアプランに反映するように努めている。	本人の話や心身の状態観察を行いながら、変化に注意し、側に寄り添う様な支援に心がけている。更に、6か月を基本に、担当者会議等で出された意見を集約し、本人及び家族の意向に沿う定期的な見直が行われている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録の入力や業務日誌の記入を行い情報の共有に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する特別養護老人ホームのご利用者との交流や外部のボランティアを活用している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回ボランティアの体操教室や不定期だが折り紙教室が開催されている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の往診を受ける方やご本人やご家族希望のかかりつけ医に通院される方もいる。緊急時は、あらかじめ病院を指定させていただいている。	受診の付き添いは原則、家族が中心である。家族に都合がつかない場合には、施設の職員の受診介助が行われている。その際、家族との受診の内容や状態、状況の報告も双方で共有されている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用してる。月4回の訪問と24時間体制で相談に応じていただき適切な看護が受けられている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを提供し入院中もソーシャルワーカーや看護師と連絡を取り合っている。退院調整もご家族を含め話し合いを行いスムーズに退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に向けた話をご家族にしている。 日々、状態変化の把握に努めご家族にも報告しご利用者の体調に異変があった場合、主治医も交えて今後について話し合っている。	事業所内で、重度化、終末期の方針、対応について利用開始時に家族に説明し、事前に了解をもらっている。又、利用開始後、状態の変化等現状に対し再度説明し、都度の同意も得ている。更に、増悪時には、主治医と事業者側、双方が話し合いを行い、余命や予後につき指示があれば事業所が対応し得る最大の支援方法を職員間で話し合い、情報を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、施設内の研修や消防隊による救命救急講習を受け技術や知識の習得に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防避難訓練を実施している。	避難訓練は毎年2回以上の訓練が行われており、そのうち1回は夜間を想定した訓練となっている。非常用食料や備品は事業所内で保管している。	地域との協力体制の構築に向けて、日頃の自治会活動や運営推進会議等で地域住民の参加呼びかけを行うなどの取組みに期待します。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や入居前の生活歴、その時の精神状態から言葉かけに注意するよう努めている。また、聞き取りやすいように簡単な言葉で話すように心掛けている。	排泄、入浴介助の際など、プライバシーに配慮し前身をタオルで覆うなど、配慮が行われている。又、事業所内で起きたことが外部に漏れる事が無い様にしている。更に、利用者の尊厳や自尊心に配慮し、職員からの高圧的な態度や命令口調などにならない様な取り組みが行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や態度の中でご本人の思いや希望を表出できるような場を持てるように努めている。 レク活動や行事などでもご本人の意向を尋ね自己決定できるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の能力を見極めその方に合った過ごし方ができるように努めている。 ご本人のペースを大切にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい洋服を選び鏡の前で身だしなみを整えていただくようにしている。外出や行事の際は、化粧をされいつもよりおしゃれを楽しんでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は厨房より出来上がってくるため、食事作りのレクリエーションや外食を毎月取り入れ食事を楽しんでいただいている。	動作、行為が出来る利用者には、準備や片付けなどを一緒に行ったり、食材の買い物にも一緒に出掛けたりしている。食事は、同じテーブルで会話を交え同じ食事をして楽しめるようにしている。更に、同一法人内には管理栄養士が配置され、バランス良い食事内容が提供されている。食事中はテレビを消してラジオを付けるなど配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量を個々に合わせている。残さず召し上がれるように食べやすい大きさにカットしたり小さい器に移し替え何回かに分けて提供している。水分量が少ない方には、声掛けやお好みの飲み物を提供し一日の目標量に近づくよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやスポンジブラシ、歯間ブラシ、ポイントブラシ等を使い分け口腔ケアを行っている。口腔ケアが困難な方は、歯科衛生士により細かい箇所のケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりへの排泄パターンを把握しその方に合ったパッドの使用やトイレの声掛けを行っている。居室でポータブルトイレを使用される方もいる。	基本、二時間毎に声かけ、誘導が行われている。利用者個々にサインがあるので、そこを職員間同士で、統一、取り決めをして排泄排尿リズムの把握に努めている。失禁後の臭いなど、後処理には配慮し心身の状態変化があれば使用する排泄用品の種類を変えて、都度の見直しを検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やストレッチ体操などを行い、天気のよい日は散歩をしていただくなど努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	個浴をメインに使用しているが機械浴を使用される方もおられるため、ある程度曜日や時間が決まっている。できる限り希望に沿えるよう努めている。	原則、毎日でも入浴希望があれば入浴できる。本人、家族とも相談し、最低でも2日に1回の入浴がなされている。又、拒否があれば、時間をずらし、一度、本人が落ち着ける馴染みの環境に戻してから再度の誘導がなされ、万一、入浴の実施が出来ない時には日時をずらす、日を変える、誘導する職員を変えるなどの工夫も行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に応じ、布団や毛布を使い分けている。温度や湿度も気を配り一日数回は窓を開け換気をしている。冬は加湿器で乾燥対策を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の情報が管理されておりいつでも確認できるようにしている。職員間で誤薬や飲み忘れがないかチェックしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除機掛け、縫い物、草取り、それぞれ得意なことを手伝っていただいている。一人ひとりの好みを把握し歌を歌う、体を動かす、ドライブに行くなどしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブ、地域の催し物等、参加する機会を設けている。定期的にご家族と一緒に掛けられている方もいる。	利用者の体調がよく天気の良い日には、散歩に行っている。又、買い物、ドライブ、外食などはその折、心身の状況に応じ毎月1回程度実施している。家族等の協力も得ながら、「デパート」など普段行く機会の少ない場所へも外出している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、お金を持参され訪問セブンイレブンや施設内の自動販売機でジュースを購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや使用は希望に応じて柔軟に対応している。手紙のやり取りもできるようにレターセットを用意している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに花を飾ったり四季や行事に合わせた壁面飾りを作り季節を感じられるようにしている。心地よい音楽を流したり快適に過ごせるよう室温調整にも気を付けている。	テレビやラジオの音量、職員間の声の大きさなど改善が必要な時は互いに注意をするように心掛けている。更に、日当たりが強ければ、カーテンの開閉等で調整するなど居心地よい生活環境になっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置に気を配り気の合う人同士で過ごしていただいている。 ゆっくりされたい方は居室で過ごすこともある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や愛着のある物をご家族が持って来られ配置されている。	個室には本人が落ち着ける、馴染みの品や物が置かれており、写真や仏壇、椅子など馴染み深い物は自宅から持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し動線にあまり物を置かないようにしている。 ベッドから起き上がる際L字のサイドレールを使用し立ち上がりが楽にできるようにしている。また、必要に応じてエアーマットも準備している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口に法人理念、ユニット入口にグループホームの理念を掲示している。朝礼時に法人理念、運営方針を唱和し、職員が共有しながら日々の業務にあたっている。法人理念の研修も行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	1カ月に2回、体操のボランティアに来ていただいている。 また、地域の方に施設行事の夏祭りや餅つきに参加していただき交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に認知症であることを説明しわかりやすく指導していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、併設する特別養護老人ホームと一緒にやっている。活動内容やヒヤリハットの報告を行い、意見を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、空室情報報告書の提出を行っている。 疑問に思うことやわからないことは、すぐに相談するようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームが4階にあるため、転落防止のため窓に鍵はかけている。また、離脱防止のためエレベータに操作が必要となっている。その他、玄関や居室の鍵は施錠していない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施を行っている。ご利用者に対し不適切な態度や発言が見られた時は、その都度職員間で注意し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を感じた時は窓口に相談し、ご家族の判断に委ねている。財産関係の内容が多く、ご家族自身で対応している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り説明を行っている。 不明な点は、その都度対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通じてご家族の意見や要望を反映させている。 ご利用者にとって暮らしやすい環境作りを心掛けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回 理事長、施設長、事務長、看護師、各事業所のユニットリーダーが参加する運営会議を開催している。また、ユニットミーティングに全員参加できるように月2回行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行いやりがい等を尋ねている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の意向や体力面を考慮し勤務体制を整えている。職員間で協力し合い有給休暇を取りやすくしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行い1人ひとりの人権に対する意識を高めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修はなるべく多くの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。施設外研修は、多くの職員が受講できるようにしていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高福協主催の地域密着サービス部会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴し他者とも打ち解けるような様子を伺いながら輪の中に入れていただいている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を十分に聴き、いつでも相談に応じることができるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、職員と検討し必要に応じ主治医にも相談し対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶ事もあり、お互いが思いを尊重しながら穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出や外出は自由に行っている。ご利用が寂しい思いをしている時、無理のない範囲で面会を依頼することもある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の意見を聴き外出レクを企画している。また、友人等が面会に来られ関係性が継続できるよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用間で気の合う同士、席の位置や一緒に過ごす時間を考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応したい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のふとした会話の中ででてくるワードを職員間で共通したりご家族に確認するなどして思いや希望を把握できるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にわかる範囲の生活歴を伺ったりご本人に尋ねたりして入居する前の生活歴や環境をなるべく把握できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活パターンを職員間で情報を共有しながら日々の変化に気を付けるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がその人らしく暮らしていけるようにご家族の思いも確認しながら職員と話し合い、心身の状態に変化があれば速やかに対応できるように努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや連絡ノートを活用することで職員間の情報が共有でき、計画の見直しに利用できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状態の変化に気づき、医師や訪問看護と連携を図っている。 気分転換に外部のボランティアを活用している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の市民センターの行事や地域のお祭り等に参加させてもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の往診を受ける方やご本人やご家族希望のかかりつけ医に通院される方もいる。緊急時は、あらかじめ病院を指定させていたでている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用している。月4回の訪問と24時間体制で相談に応じていただき適切な看護が受けられている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを提供し入院中もソーシャルワーカーや看護師と連絡を取り合っている。退院調整もご家族を含め話し合いを行いスムーズに退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に向けた話をご家族にしている。日々、状態変化の把握に努めご家族にも報告しご利用者の体調に異変があった場合、主治医も交えて今後について話し合っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、施設内研修や消防隊による救命救急講習を受け技術や知識の習得に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防避難訓練を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や権利を守るための声掛けや対応ができるように努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の思いや希望を把握できるように心掛け、同じ内容でも質問の仕方を変えたりして自己決定に繋がるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や生活歴に配慮し、昼夜逆転につながらない程度でマイペースに過ごしていただけるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用する方やご自分でバリカンを準備されている方もいる。毎朝、温かいタオルで顔を拭いたり整容を行っている。外出や行事の時はご本人と相談しながら服装を決めている。女性はお化粧をする時もある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段厨房より食事が出来上がってくるため食事作りレクを取り入れ、職員と一緒に好みの物を作っている。また、外食にも出掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量と水分量の把握を行っている。体重測定や血液検査の結果等により栄養不足になっていないか確認している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔機能と出来る能力に応じた用具を使って、口腔ケアを行い清潔保持ができるように支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し決められた時間に声掛けや誘導を行いトイレで排泄ができるように努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを把握し便秘の傾向がある時は、普段より多めに水分を摂取したりヤクルト等飲んでいる。軽い運動も取り入れている。ご自分でうまく腹圧がかけられない方は、下剤を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴がお好きな方や嫌いな方で入浴の回数が違う。2名対応で入浴をされる方もいるため、曜日や時間がある程度決まってしまうこともある。できる限り希望は聞くようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や活動状況、ストレスの状態等を把握しその時々に応じて休息や睡眠が取れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情をファイルしておりいつでも確認できるようにしている。処方の変更になった際は状態観察を行い変化に気を付けるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人でパズルや読書を楽しむ方や、ボール等を使って皆と体を動かすことが好みの方に分かれ気分転換を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出やドライブ等できるだけ行く機会を増やしている。戸外で楽しく過ごせるよう日頃の会話から関心や興味があることを尋ね行き先の参考にしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売を利用しているが、個人で金銭は持っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでも電話を掛けれるようにしている。また、ご家族やご兄弟からの電話の取り次ぎもしており楽しくお話をされている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをしたり温度や湿度に配慮しご利用者にとって安心して過ごしていただけの空間作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを配置し、お好きな場所で寛いでいただいている。一人の時間が必要な方は居室で過ごしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やご家族の写真等ご本人がリラックスできる空間が作れるよう支援している。居室が和室のため、ベッドを使用せず畳に布団を敷かれている方もいる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が動かれる動線には物を置かないようにしている。手すりがない箇所は椅子を利用し安全に移動できるようにしている。必要に応じてL字のサードレールやエアーマットを準備している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない